



# 東京都立多摩桜の丘学園学校だより

さくらちゃん News



令和6年9月17日発行 第7号  
多摩市聖ヶ丘1-17-1  
電話 042-374-8111  
発行者 校長 西田 良児

忘れてはならないこと

副校長 鷹野 泰男

早いもので、今年度も半分が終わろうとしています。そして、季節は酷暑の夏から徐々に涼しい秋に様変わりしようとしています。

9月6日（金）は、大規模災害の発生を想定した総合防災訓練（引き取り訓練）を実施しました。当日は、本訓練の趣旨を御理解いただき、暑い中、また、お忙しい中、本当にありがとうございました。アンケートの御協力もありがとうございました。連絡帳の記載を含め、皆様からの御意見等を参考に、今後の本校の防災体制を検証していきます。

さて、今年はオリンピック・パラリンピックイヤーで、フランスの首都パリで開催されました。様々な国と地域から多くの選手が参加し、日頃の練習の成果を発揮していました。日本からも、多くの選手が各種目で精いっぱい活躍していました。ある選手は金メダル獲得の大きな期待を背負いながらもまさかの2回戦敗退、ある選手は2大会連覇、また、日本人として96年ぶりのメダル獲得を果たした選手もいました。パラリンピック競技では、車いすラグビー日本代表が決勝戦でアメリカ代表に快勝し金メダルを獲得しました。チームのメンバーの一人が過去の悔しい思いをばねに鍛錬を続け、「世界一の選手になるために何が必要なのか、何をすべきなのか、一つ一つ課題をクリアにしていたことで今の結果がある。」と振り返り、「自分一人の力ではここまでこれなかった」と周囲への感謝も述べていたことが印象的でした。また、バドミントン男子シングルス車いす部門では、ドイツの選手が60歳というパラリンピック史上最高齢でメダルを獲得したというニュースも目を引きました。37歳のときに事故に遭い、その後にバドミントンを始め、不屈の精神で毎日8時間以上のトレーニングを5年間毎日続けていたとのことでした。

スポーツには勝負はつきものですが、スポーツを通して何を学ぶか？各競技で身に付けた力を生きていく上でどのように発揮していくか？結果に関わらず、各国の選手の大会参加までの努力や工夫してきたこと、当日の活躍等を通して、観客に教えてくれたような気がしました。スポーツを通して「何を学ぶか」だけではなく、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という視点で考えたときに、単に知識や技術を習得し、スキルを高めるだけではなく、学習指導要領にも示されている「育成を目指す資質・能力の3つの力」①学びに向かう力、人間性等、②知識・技能、③思考力・判断力・表現力等を育成するため、今後も特別支援教育を進めるうえで求められる大切なことであること、授業を進めるうえで教職員一人一人が忘れてはならないことであること、そして、学校がチームとして組織的に進めていかななくてはならないことであると改めて考えさせられました。

2学期が始まって2週間が過ぎ、児童・生徒の元気な挨拶が聞かれるようになり、とても嬉しく思っております。2学期は、宿泊行事や文化祭など、様々な行事や活動があります。保護者の皆様には御協力していただくことも多くあるかと思っております。どうぞ、よろしくお願いたします。